

2020

34 2021 3 31

3

中学校 社会科公民的分野 学習指導案

日時 3 1 29 1 8 40 9 30
 場所 2
 学年・組 3 A 41 19 22
 単元 の と

目標 1. の の と してい。
 2. などに して い について してい。
 3. つけ し うとしてい。 に に

指導計画 4
 について え 1 1/4
 の と 3

授業について

の について え の として した。 は
 の と った な であ が く に さ 々な が け
 てきた。この の しさは が してきた「 さ」の とさ てきた
 であ 「 」の であ こと とのひとつであ な が な
 であ と え。 の ではこ で「 と 」 「 」など
 につく え が さ てきたが す で な の
 え は には さ ていない。 では は の 「 」で
 さ た の か についで な について う としつ つ の
 など じて「 たちは の にあつて な に え の の けて
 い 」 「 は い には かせないが に かせ ので あ」という「 」
 の え に させなが の に けた させ ことで「
 の え 」 させ こと す のとした。

題目 について え

本時の目標

1. の と してい。
2. などに して い について してい。

本時の評価規準（観点／方法）

1. の と について についで してい。
2. などに して い について してい。

本時の学習指導過程

		上
	<p>○ がなぜ か す。</p> <p>○ の と す</p> <p>。</p> <p>あ た の と</p> <p>の 2 つ に でき 。</p> <p>そ こ か か は ①</p> <p>の ど 増 す ② 増</p> <p>す ③ し て な い の ど</p> <p>増 す に な 。</p> <p>の は の で</p> <p>あ 。</p> <p>○①②③についてそ ぞ 代</p> <p>な す 。</p> <p>め ぐ の に は</p> <p>の せ は で とい</p> <p>う の え が し て い 。</p> <p>と な 妊 娠 が 増 え</p> <p>た が 増 え な か っ た</p> <p>に 同 の が え 。</p> <p>○グ ル プ で た ち な に</p> <p>す 。</p> <p>か な と て 増 大</p> <p>→ 償</p> <p>→ 口 再</p> <p>働 き の し に く さ</p> <p>→ 休</p> <p>→ 値 の</p> <p>不 の の 増 大</p> <p>→ 員</p> <p>→ へ の 依 存</p> <p>伝 ジェンダ</p> <p>→ では</p> <p>→ の 利 別 務</p>	<p>○ な について な</p> <p>かせ 。</p> <p>○ あ た の と</p> <p>の 2 つ に でき こと そ こ か</p> <p>でき こと に づ か</p> <p>せ 。</p> <p>○ 切 に み こと が で</p> <p>き う に さ せ 。</p> <p>○ た ち の が の</p> <p>け て い こと で</p> <p>変 し て い こと に づ か せ 。</p> <p>○他 の への介 と個 内の</p> <p>の について え さ せ</p> <p>。そ の ど ち の 場</p> <p>に な し さ に</p> <p>づ か せ 。</p> <p>た と の</p> <p>につい て さ せ 。</p> <p>○ 価 に づ い て コ メ ン し</p> <p>につ な げ 。</p>
備考	<p>主な参考文献 内 『 』令和</p> <p>』光 「 え の 口</p> <p>『医 と 』ほか</p>	<p>井也『 と の こ か</p> <p>メカニズム えつつ 』</p>

実践上の留意点

1. 授業説明

は 倫 等 々 な としてい 。
では に としてい ゆ の が さ てお 前回の
で さ た 「 と合 」 「 と 」 という え は代 な のであ 。 た
では たに え として 「 」 「 と交 」 が さ 今 の
かした が 増え ことが さ 。 で す で な の
については に 利 す ことはあつて 「 の え 」 その の が
に さ ことは な どに べ ない。 では は 「
」 という の で さ た え に づいて な について
う としつ つ 「 たちは の にあつて な に え の の けてい
」 「 は い には かせないが に かせ ので あ 」 という と個 の
の 「 い 」 え 「 」 の え と し こ いて の に
けた させ ことで 「 の え 」 させ こと す のとした。
は の と っ て な であ が く に
さ 々な が け てきた。 多 に てきたが今のところ は と
ぎ ない。 の は 大きく 「 」 と 「 で うけ どの 」 で でき
が げ にせ の ど 増 すにせ 個 の す ことと
の のための す ことと 両 させ ことには 困 が 伴う。 と す ば し
た に 「 は ど べき 」 に うな の 場か 他 の
に 介 す うな にな がちであ 。 「 」 で の か とし
て さ た 多くの す 場と す 場という いたとして 「
し 」 vs 「 守 という 」 と 「 多くの 世代の 」 vs 「 リプロ
ダ ティブ ライツ 」 と づけ ことができ てし う。この の しさは が
してきた 「 さ 」 の と さ てきた であ 「 」 の であ こと とのひ
とつであ な が な であ と え 。
の は い であ が メディアでの 作 の多くは 剩に危 った
の の 功 として 大に げた の などが 多い があ 。 「 に づく
に づいて 多 多 に した に え に した す こと
29 告 「 」 に す 吟味して し の か
した させ とと に そ み きなが の に つ な
え ば せたい。
初は えていたが におさ うに した。その な が 多
く なる してし った。 であ ば各 についてそ ぞ どの うな が か えさせた
吟味し 十 に があった。 の についてのメリッ デメリッ に
ついて 十 に させ が であつた。

2, 研究協議

一

中

主 乘

不